

# 評価・目標の学習者との共通理解を目的とした 高等学校理科での表現活動の実現

高度教職開発専攻教育実践力コース

学籍番号 239320

氏名 久保田峻

大学院主指導教員 鈴木康文

大学院副指導教員 吉本直弘

## 1. 背景

高等学校学習指導要領（2018年告示）解説 総則編<sup>1)</sup>では、「総合的な学習の時間」が「総合的な探究の時間」に変更され、探究活動への注目が高まっている。この探究活動では従来型の筆記テストで学力を測ることは難しく、パフォーマンス課題を評価する手法が必要となる。その手法として、中央教育審議会<sup>2)</sup>（2012）は学習成果を把握する具体的な方策の1つとしてルーブリックを取り上げ、その研究・開発の重要性を指摘してきた。

実習校は大阪府内の高等学校で、特色として教職コースが設けられている。探究活動に対しては積極的に行っており、教育探究や科学探究など様々な分野での探究授業が行われている。生徒の学力は中位程度であるが、班で協働する活動には積極的に関わり探究活動外でも班での学習活動を入れた授業形態が多い。

## 2. 目的

本実践課題研究の目的は、高等学校理科の表現活動にルーブリックを活用することにより、生徒の能力の向上や表現活動の評価や目標の共通理解にどのような効果があるのかを実践、検証することである。

## 3. 方法

実習校の第二学年で開講されている地学基礎で実践を行った。主な対象クラスは文系選択の1クラス（N=37）で表1の流れで授業実践を行った。実践は地学基礎の地球の内部構造、火山の形、雲の種類、地球のエネルギー収支の計4つの単元で行った。

表1. 授業の流れ

| 時数         | 実践内容   |
|------------|--|
| 1          | 通常授業の後10分程度<br>①ポスター作成の目的・目標を共有し、ルーブリックを提示<br>②前回作成したポスターの講評 |
| 2          | ③再度、ポスター作成の目的・目標を共有し、ルーブリックを提示<br>④ポスター作成+机間指導               |
| 3<br>までの宿題 | ⑤各班で作成したポスターの自己評価（個人）<br>また、ポスター作成が終わっていない場合は宿題で行う           |
| 4          | ⑥ポスターの教員評価を返却<br>⑦ポスターを廊下に展示                                 |

## 4. 結果・考察

作成したポスターを教員と生徒自身で評価した結果を図1にまとめた。図の縦軸は各評価観点の平均値を、横軸は教員評価と生徒評価の各項目を並べた。実践の結果、(a)に示す実践回と(d)に示す実施回を比べるとすべての観点での教員評価や、構成に関する観点で生徒と教員評価の差で優位に向上が見られ一定以上の成果があった。要因としては、継続的な実践やアンカー作品の講評によって生徒の能力向上や目標・評価に対する共通理解が築けたと考えられる。

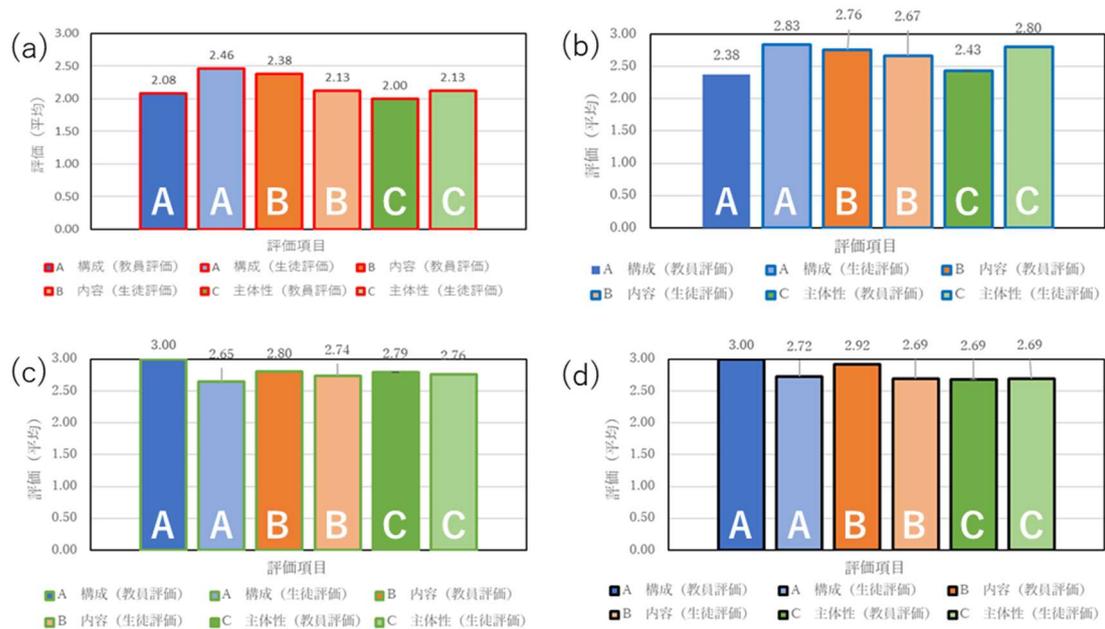


図1. ポスター評価の結果

(a) : 地球の内部構造 (b) : 火山の形 (c) : 雲の種類 (d)地球のエネルギー收支

## 5. 結論

本実践課題研究では、高等学校理科での表現活動にルーブリックを用いた評価を実践した。具体的には地学基礎のポスター作成と評価を実践し、生徒のポスター作成における学力の向上が見られた。生徒と教員間で評価や目標の共通理解が向上したのかという点では、すべての評価観点や実施回で有意差のある向上は見られなかったものの、一定以上の成果が得られた。向上の要因としてはアンカー作品の講評と継続的な実践が考えられる。今後の課題として探究活動への応用と実践頻度の維持があげられる。

### 参考文献

- (1) 高等学校学習指導要領 解説 総則編 2009
- (2) 中央教育審議会 2012 『新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて—生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ— (答申)』